

日時：令和6年11月22日（火）15:30

会場：本館2階 セミナールーム021

1. 開会

2. 校長挨拶（岩崎校長）

10月初旬に学校の文化祭を実施した。生憎の天気だったが、地域の方々にお越しいただき生徒は生き生きと活動していた。

修学旅行は3泊4日で北海道方面に行った。コロナ禍には制限があったが、日常の教育活動が送れているように感じる。

本日は地域の皆様方、関連する行政の皆様方、本校の教育内容に忌憚のない意見をいただきたいと思っている。これからの専門高校は何を目指すのか、神奈川県産業教育審議法の答申がまもなく出るが、ソサエティ5.0に学校教育がまだ追いついてない。地域社会・関連企業・上級学校との連携で学校教育では補えない部分を連携してフォローしていきたい。

3. 委員紹介

（中川副校長より紹介）

神奈川工科大学健康医療科学部管理栄養学科教授 澤井淳様

開成町教育委員会教育長 石塚智久様（委嘱状）

開成町産業振興課課長 中村睦様

小田原箱根商工会議所経営支援部長 井上経様

開成町立文命中学校長 小畑利幸様

開成町榎本自治会長 山本育美様

吉田島高校PTA会長 加藤孝治様

4. 職員・事務局紹介

学校長 岩崎

副校長 中川

教頭 柴崎

事務長 佐宗

学事グループリーダー 阿出川

生徒活動グループリーダー 高梨

生活指導・支援グループリーダー 小澤

キャリアグループリーダー 片山

広報情報グループリーダー 露木（文）

広報情報グループサブリーダー 小野

管理グループリーダー 菊池（正）

5. 協議

(1) 令和6年度 学校評価目標 (中間報告)

①教育課程、学習指導

(阿出川より)

本校では組織的な授業改善に取り組んでおり、OKJ（教えて考えさせる授業）を取り入れて授業を実施している。OKJの目指す姿は生徒自身が学び方を学ぶということである。生徒の状況を見ると、学習状況が整わない等、非効率な学習をしている生徒が見受けられる。

まずは整理整頓をして学びの場を整えることを生徒に気づかせ、生徒自身で学ぶ環境を整えられるようにしていく。併せて、指導する教員も同じ目線で教育環境を整える。身の回りの整理整頓や、黒板前に掲示物を掲示しない等の取り組みをしている。12月の中旬に生徒自身に振り返りアンケートの実施の予定である。

(露木より)

毎月1回、職員研修会という形式でOKJの理解を深めるように努めた。OKJをどのように行っているか、何か課題はあるか、他教科との実践状況等を情報交換してきた。

10月17日に研究授業を実施した。4人の教員が授業を実施し、他の教員が見て研修会を行う形で実施した。研究授業については、普通教科だけではなく、農業、家庭科を含めた4つの授業を行った。

7月には生徒による授業評価を実施した。質問項目は10項目、科目ごとに生徒に答えてもらう形式であり、4段階で回答してもらった。集計結果を見ると、年次によっては、グラフの形の特徴が異なるが、目標である「授業の中で身についたことやできるようになった」という項目について、8割以上の生徒が実感していると回答している。

農業科目、家庭科、普通教科ごとに集計したもの、各教科ごとに集計したものも用意している。次回は12月に同じくアンケートを実施する。

(高梨より)

学校行事について、生徒が企画運営をし、生徒主体で実施し、教職員がサポートできるように目標を立てて取り組んできた。文化祭はアンケートでは概ね満足だったという回答を得た。しかし、ルールを守れてない者もあり、次年度の課題である。

(澤井委員より)

生徒による授業評価について、2年次の集計グラフの円形が他年次より小さいように感じるが、その理由は何なのか。

(露木より)

何が要因か明確な解答はできないが、2年次に中だるみ傾向が出てきてしまうこと、1年次は中学校の内容の復習も重なるが、2年次から本格的な高校の授業内容になり、勉強から気持ちが離れてしまう子が多いのではないかと思われる。3年次からは進路実現に向けて授業に取り組み、それが改善傾向になるのではないだろうか。

②生徒指導・支援

(小澤より)

まず生活規定の見直しについて、以前から防寒着の着用方法について分かりにくいとの意見があった。パーカーを着ていいかどうか等の細々した点について、今年度はパーカー着用を可にしたが着用方法に条件を設けた。風紀委員と話し合いで決め、1人1台端末を利用して、風紀委員から生徒全体に周知をした。今のところ大きな問題はないが、1月を目処にこのルールについて再考したい。今後も生徒の意見を取り入れながら、学校側として譲れない点もあるため、すりあわせながら決めていきたい。

講演会については、昨年度ご指摘があった通り、一斉講演の形式だと生徒が自分事として取り組めないため、今年度は参加型の講演会を多く取り入れた。講演の中で生徒は実際に活動していく中で他者理解に努めた。生徒は難しいと感じつつも他者との協働等を体感で分かったのではないかと感じた。

サポートドッグについて、2、3年は比較的スムーズに実施できた。しかし、1年次はICT環境が校内で整うのが遅かったため苦慮したが、面談が必要な生徒は面談できた。第2回は11月28日に実施予定である。

教育相談体制の確立について、各年次に教育相談コーディネーターを配置し、週に1回SC、SSWに来ていただき、校内を見ていただくなど支援を行ってきた。外部との連携もスムーズにできていると思う。年々、生徒一人ひとりが抱える内容が複雑化して、それぞれの生徒の抱える問題に対応するのに苦慮しているのが現状である。

(校長より)

近年、支援という側面が学校現場で大きく、生徒一人ひとりの課題が多岐にわたっている。

学習に対しても様々な課題を抱えている。一斉授業が果たして本校の生徒に合っているのかどうかについても考えなければならない。義務教育段階の学力が身につけていない生徒も一定数いる。

学習支援にも繋がる話だが、本校ではOKJを実施している。一方で探究学習を進めていく動きが文科省を含めあるが、基礎学力と探究学習が、本校ではリンクできてないという点が課題である。幅広い生徒がいる中で学習を進めていかなければならないという点が課題である。

生徒支援について、学校に来たくても来られない生徒もいる。そのような生徒に対してどのような手立てがとれるのか。また対人トラブル、規範意識の低さなどの課題もある。以上は本校に限らず、近隣、県内で共通する課題といえる。

③進路指導・支援

(片山より)

生涯働くことを前提に進路を考えるということで活動を進めている。その中でキャリアガイダンスやインターンシップを充実させようとしている。ガイダンス等が終わった直後は、進路に対する意識は活性化するが、その熱意が長続きしないという点が課題であった。これが進路実現の困難さにつながっている気がする。一生懸命やる生徒はもちろんおり、継続的にガイダンスで実施した仕事探し等を受けて自分なりに進路を見つけそれを目指して一生懸命やる生徒もいる。これからは自分でやっていけない生徒をどうやって引き上げていくのか考えなければならない。そこで問題になるのが、履歴書などを書かせると志望理由などが書けないという点である。何がしたいかが書けない。そこに対する指導を充実させていきたい。

就職状況について、職安を通して就職する者が44名おり、そのうち36名が進路を決定、7名が活動中、さらに10余名程は自己開拓やアルバイトで良いということである。

④地域等との協働

(小野より)

情報発信の場として、本校HPの充実を取り組みとしてあげている。

8月の学校説明、10、11月の体験入学にて、9割以上の参加者がフォームメールを活用してスムーズな申込みができています。本校HPのアンケートにて、アンケートを実施した。「本校のHPの内容が本校の理解につながったか」という質問に対して、中学生は、「理解できた」が100%、保護者も「理解できた」が95%を超える回答結果となった。

また新たな情報発信の場としてYouTubeのアカウントを作成でき、活用を模索している段階である。現状では学校概要をYouTubeに上げている。HPにもYouTubeのリンクを貼って本校の理解につなげていこうとしている。今後、その他のコンテンツにおいても動画を活用しながらわかりやすい情報発信を行っていききたい。

(石塚より)

地域等の協働のことなのにHPやYouTubeのことしか触れられてないが、20年以上にわたり、幼小中高の連携事業を行っている。その点について触れた方が良かったと感じた。

要望になるが、生徒と一緒に園児が活動できると良いと思う。

(副校長より)

あじさい祭りで、本校は大変お世話になっているため、今後は掲載させていただきたい。

(校長より)

広報の方法について、現状、HPと学校案内の2段階でやっているが、SNSをさらに活用したほうが良いのかご意見を賜りたい。

(小畑委員より)

中学校では学校での進路指導の際にはHPを活用している。そこから個人的にSNSで参照できるなら生徒自身で参照してもらっている。SNSなど選択肢が多ければ、子どもたちのほうが大人よりも操作できる。特定のSNSを用意してほしいといったことはない。HPがあった方が中学校での進路指導はしやすい。

(澤井委員より)

大学にはHPがあり、SNSがあるが、基本的にはHPがあって、それに派生する場面に応じた発信する際に各ツールを用いている。学生への連絡ツールとしてはLINEが増えてきた。

(井上委員より)

HPと各ツールでは入り方が逆であると考えます。大学生等に聞くと、動画を長く見ており、そこで興味を抱いたものを深く調べる。そこで行き着くのがHPである。つまり、動画からHPへ行くので、いかに興味を持ってもらうコンテンツを作れるかという点が大事なのではないか。

⑤学校管理、学校運営

(菊池より)

本校は開成町と災害に関する協定書を結んでいる。現在その協定書の見直しについて開成町の防災担当の方と協議をしている。

校内の危険箇所の把握に努めているが、8月に校内安全点検を実施し、集計して現状を把握している状況である。一昨年度に大規模に校内点検と補修を行ったので大きな危険はないと考えている。定期的に安全点検を実施していきたいと考えている。

(教頭より)

今年度は、業務内容を精選かつスリム化を図り、教員の超過勤務を改善すること目標としてきた。働き方改革を進めているところだが、やはり教職員がいかに子どもに割ける時間を設けられるかが重要であるため、事務的な内容を軽減できるかを考えている。業務アシスタントが2名体制になったので、業務を分散していく。また、朝の欠席連絡について、Teamsを活用した「欠席等連絡システム」を来週から運用していく。これにより、朝の連絡を教職員が受けるといったことをなくしていく。本校の場合は、個人にカードを配布し、QRコードを読み取ってもらい欠席等の連絡をしてもらう。

もう一点、職員が研修を自分事として捉え、不祥事を無くしていくことを目標としてきた。具体的な取り組みとしては、毎月の不祥事防止研修を職員が講師役としてテーマに沿った内容を職員に講義してもらい、理解を深めてもらう。私自身うまくいっていると感じている。

働き方改革はもっと進めていかないといけない。教員の長時間労働はなかなか減っていないのが現状であるため、事務的な負担を減らしていきたい。

6. 報告事項

(1) 各年次より生徒の様子

(1年次 高梨より)

入学して半年が経過した。夏休み明けに生活面の乱れで特別指導があった。学習支援の必要性がある生徒がいるので家庭と連絡を密に取りながら進めていきたい。

(2年次 小野より)

10月に修学旅行が終わり、折り返し地点を過ぎた。前半は中だるみで落ち着かないことも多々あったが、修学旅行が終わって多少落ち着いてきた印象がある。ここに来て、家庭の事情や精神面が関係して学校に来られなかったり、学校生活の中で問題を抱えている子がいる。担任、年次、グループで見守りを続けてサポートしていきたい。

(3年次 小澤より)

進路決定をほとんどしており、卒業が見えてきた。落ち着いていたが、次の世界に向けて気持ちが高まり、羽目を外し気味のように感じる。12月の年次集会等で注意をしたい。18歳成人ということも踏まえて卒業に向けて指導していきたい。

7. その他

本日の記録について後日送付をする。また学校HPにも記載する。

今後の学校運営協議会は3月12日(水)に今回と同場所で開催予定。

8. 閉会

(校長より)

お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。

本校の教育目標、目指すべき生徒像はグランドデザインに示されている通り、大きく2つある。専門教育を通じたスペシャリストの育成、地域産業の担い手の育成である。今後ともこの点を踏まえてご意見を賜りたい。

アドミッション・ポリシーを踏まえて、本校の専門教育をしっかり理解したうえで3年間勉強してほしい。中学生にもその点を理解してほしい。教育の内容が志望動機に入っていないのは中学生にとっても不幸であると感じる。目的意識がないと学校生活が続かない。吉田島高校で学びたいという強い意欲があれば課題を乗り越えられると思うので、その意識を入学生にも持たせたい。そのような点を踏まえて今後とも厳しいご意見を遠慮なく仰っていただき、地域にとっての価値を高めていきたいと思う。